

第2章 各教科等における学習評価

5 小学校 生活

生活科の単元は、内容（1）～（9）を基に、各学校が意図的、計画的に構成するものである。また、次のような生活科の単元の特徴を大切にすることが重要である。

- 児童が、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現していく必然性のある学習活動で構成する。
- 具体的な活動や体験を行い、気づきを交流したり活動を振り返ったりする中に、児童一人一人の思いや願いに沿った多様な学習活動が位置付く。
- 学習活動を行う中で、高まる児童の思いや願いに弾力的に対応する必要がある。
- それぞれの学校や地域の人々、社会及び自然に関する特性を把握しそのよさや可能性を生かす。

各学校には、このような生活科の単元の特徴を大切にしたり、児童の実態を考慮したりしながら、2年間にわたって各内容をどの学年でどのように扱うかを構想し、妥当性・信頼性のある評価を行えるよう創意工夫した単元計画を作成することが求められる。

その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価基準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。ここでは、次の単元を例として、その評価例を示す。

第1学年及び第2学年内容（7）「動植物の飼育・栽培」

動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

①単元（題材）の目標を作成する

生活科における全ての内容は「～を通して（具体的な活動）、～ができ〔思考力、判断力、表現力等の基礎〕、～が分かり・気づき〔知識及び技能の基礎〕、～したりしようとする〔学びに向かう力、人間性等〕」のように構成されている。年間指導計画に基づき、具体的な学習対象や活動に即して、自校の単元の目標を作成する。

<内容（7）における単元の目標例>

モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気づき、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

②単元（題材）の評価基準を作成する

（1）「知識・技能」

この資質・能力を評価するに当たっては、①気づきが自覚されること、②個別の気づきが相互に関連付くこと、③対象のみならず自分自身についての気づきが生まれること、を気づきの質の高まりとして見とることが大切である。また、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意する必要がある。評価規準を作成する際は、以下を参考にすることが考えられる。

「知識・技能」のうち、知識に関する評価規準（例）

・評価規準の構造を「○○に気付いている」、「○○が分かっている」などとして作成する。

※ ○○には、知識の具体を記述する

「知識・技能」のうち、技能に関する評価規準（例）

・評価規準の構造を「△△において（の際）、○○している」などとして作成する。

※ △△には学習活動を、○○には学習指導要領解説生活編（P14）に示した習慣や技能を参考にし

て、具体を記述する。

(2)「思考・判断・表現」

この資質・能力を評価するに当たっては、①見付ける、②比べる、③たとえる、などと示された分析的に考えること、④試す、⑤見通す、⑥工夫する、などと示された創造的に考えることを踏まえる必要がある。評価規準を作成する際は、以下を参考にすることが考えられる。

「思考・判断・表現」に関する評価規準（例）

・評価規準の構造を「〇〇して（しながら）、△△している」などとして作成する。

※ 〇〇には、具体的な学習活動において期待する思考を、△△には具体的な児童の姿を記述する。

※ 思考を具体的に表したものとして、以下も参考にすることができる。

① 見付けて（見付けながら）、思い起こして、感じて、気にしながら、意識しながら など

② 比べて（比べながら）、特徴でまとめながら、違いで分けて、順序を考えながら など

③ たとえて（たとえながら）、知っていることで表しながら、関連付けながら、置き換えてなど

④ 試して（試しながら）、実際に確かめながら、調べたりやってみたりして、練習しながらなど

⑤ 見通して（見通しながら）、思い描きながら、予想しながら、振り返って など

⑥ 工夫している（工夫しながら）、生かしながら、見直して など

※具体的な児童の姿として、以下が考えられる。

・観察している、関わっている、記録している、方法を決めている、表している、集めている、楽しんで、遊んでいる、交流している、捉えている、知らせている、利用している、伝え合っている、計画を立てている など。

(3)「主体的に学習に取り組む態度」

この資質・能力を評価するに当たっては、

① 「粘り強さ」…思いや願いの実現に向かおうとしていること

② 「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること

③ 「実感や自信」…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返す、安定的に行おうとしていること

などを踏まえる必要がある。評価規準を作成する際は、以下を参考にすることが考えられる。

「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準（例）

・評価規準の構造を「〇〇し、△△しようとしている」などとして作成する。

※ 具体的な学習活動に即して、〇〇には①粘り強さ、②学習の調整、③実感や手応え、に関して具体的に表したものを、△△には具体的な児童の姿を記述する。

このことを踏まえて、本単元の評価規準を以下のように設定することができる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに <u>気付いている。</u>	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって <u>働きかけている。</u>	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切に <u>しようとしている。</u>
第1小単元 評価規準	①モルモットの特徴、変化や成長の様子に <u>気付いている。</u>		①元気に育てたい、仲良くなりたいという思いや願いをもって、モルモットに関わろうとしている。

第2小単元 評価規準	②モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、モルモットに合った世話の仕方があることに気付いている。 ③モルモットを適切な仕方では世話をしている。	①モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。	②モルモットに心を寄せ、モルモットの様子に合わせて、繰り返し関わろうとしている。
第3小単元 評価規準	④モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。	②モルモットとの関わりを振り返りながら、世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を表現している。	③モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

③指導と評価の計画を作成する

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階(時間)でどの評価規準に基づいて評価するかを決定し、実際の学習活動を踏まえて評価方法を計画する。

本単元は、内容(7)「動植物の飼育・栽培」の1内容によって構成されている。本単元の中心的な学習対象・学習活動をモルモットの飼育とした上で、内容(7)の「内容まとめりごとの評価規準」と「具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)」を参考に、単元の評価規準を設定した。

第1小単元は、モルモットに関心をもつことと、これまでの動植物の飼育・栽培経験を生かした様々な視点からのモルモットへの気付きを重視したいと考え、「知識・技能」①、及び「主体的に学習に取り組む態度」①の評価規準を設定した。

第2小単元は、本単元を中心となるモルモットの飼育活動であり、モルモットへの気付きを高めながら、モルモットに働きかけたり、状況に応じて関わり方や世話の仕方を変えながら飼育を継続したりする姿を見取る適切な評価機会を設定できることから、「知識・技能」②③、「思考・判断・表現」①、「主体的に学習に取り組む態度」②の評価規準を設定した。なお、「知識・技能」③は、モルモットの飼育活動の過程で身に付ける習慣や技能として設定している。

第3小単元は、上手に世話ができるようになったことへの気付きとともに、これまでのモルモットとの関わりを振り返り、世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を、自分なりの方法で表現することと、モルモットへの親しみやこれからも生き物を大切にしようとする態度の育成を重視したいと考え、「知識・技能」④、「思考・判断・表現」②、「主体的に学習に取り組む態度」③の評価規準を設定した。

小単元名(時間)	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		知	思	態	
第1小単元 見てさわって なかよし大きく せん(4時間)	<ul style="list-style-type: none"> 3年生からモルモットの飼育を依頼され、話し合う。 獣医師さんから、モルモットについての話を聞き、モルモットと関わる上で、気を付けなければならないことを知る。 モルモットに触れたり、えさを与えたり、一緒に遊んだりしながら、モルモットを観察する。 	①		①	<ul style="list-style-type: none"> 観察カード、短冊カードの分析、発言分析 観察カードの分析、行動観察
第2小単元 お世話で なかよし大きく せん(7時間)	<ul style="list-style-type: none"> モルモットの飼育環境やえさ、世話の仕方などを調べる。 モルモットの様子に合わせて、世話の仕方を工夫する。 モルモットを飼育して、気付いたことや感じたことを絵や文で表現したり、友達に伝えたりする。 	② ③ ①			<ul style="list-style-type: none"> 発言分析、調べ活動のメモや世話の記録 行動観察や発言分析、世話の記録 行動観察や発言分析、

					世話の記録
第3小単元 ぼく・わたしとモルモット (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> これまでのモルモットの飼育活動を振り返る。 世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を、モルモットの本に表現する。 	④	②	③	<ul style="list-style-type: none"> 作品(モルモットの本)や発言分析 作品(モルモットの本)や発言分析、行動観察

④実際の指導及び評価

この学習活動においては、例えば「思考・判断・表現」の評価規準を以下のように設定し、その評価規準における具体的な児童の姿を想定し、評価を行う。

「思考・判断・表現」① ・モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。

■具体的な児童の姿と評価方法

- ・モルモットの食べ具合を見て、えさの種類や量を調節している。
- ・モルモットの様子を見ながら、嫌がらないようになでたり、だっこをしたりしている。
- ・モルモットの立場に立って考え、モルモットが気持ちよく過ごせるように世話をしている。
- ・世話の過程で起きた問題の改善に向けて、世話の仕方を変えている。
- ・世話の仕方を獣医師や上級生に聞いたり本で調べたりしている。

(いずれも、行動観察、発言分析、モルモット日誌の分析)

⑤観点ごとに評価を総括する

「小単元における評価規準」は、「単元の評価規準」を分割して設定したものである。したがって、「小単元における評価規準」の評価結果を集計すれば単元の評価結果が得られると考えられる。行動観察及び学習カードや作品の分析などが中心で、結果や出来栄よりも活動や体験そのもの、つまり学習の過程が重要となる生活科の評価においては、分割したものを統合するという考えに留まらず、児童の学習状況を「単元の評価規準」に照らし、児童の学習状況の全体像(個人内の成長や多様性)を捉え直してみることも大切である。

単元の評価を行うには、それが簡便にできる、いわゆる集計簿などを作成しておくといよい。それについては、例えば、日々の評価を記録して「小単元における評価規準」を出すための表1、「小単元における評価規準」ごとにまとめられた評価結果を一覧できる表2などが考えられる。

表1 日々の評価一覧(例)

小単元3 (5)	知識・技能④		思考・判断・表現②			主体的に学習に取り組む態度③	
	1回目	2回目	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目
A児	—	C	—	B	B	B	B
B児	A	—	B	A	A	—	A
C児	B	—	A	—	A	A	—
D児	B	A	—	B	A	B	A

表2 小単元ごとの評価一覧(例)

小単元の 評価規準	知識・技能				思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	知①	知②	知③	知④	思①	思②	態①	態②	態③
A児	B	C	B	B	B	B	B	B	B
B児	A	B	A	A	A	A	A	B	A
C児	B	A	A	B	A	A	A	A	A
D児	B	B	B	A	B	A	B	B	A

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校)(国立教育制作研究所)